

July 9, 2021

【前日の為替概況】ドル円、反落 株安でリスク回避の円買い

8日のニューヨーク外国為替市場でドル円は反落。終値は109.72円と前営業日NY終値(110.66円)と比べて94銭程度のドル安水準だった。世界で新型コロナウイルスの感染拡大が収まらず、景気回復が遅れかねないとの懸念から世界の株式相場が下落すると、投資家がリスク回避姿勢を強め円買い・ドル売りが優勢となった。24時前に一時109.53円と6月11日以来約1カ月ぶりの安値を付けた。市場では「日本政府が東京都に4回目の緊急事態宣言を発令したことで、世界的な変異ウイルスの広がりへの警戒感が高まった」との声が聞かれた。

欧州を代表する株価指数のひとつユーロ・ストックス50指数は2%超急落したほか、ダウ平均は一時530ドル超下げた。また、ナイト・セッションの日経平均先物は大証終値比670円安の2万7480円まで売られる場面があった。

もっとも、NY午後は下げ渋る展開となった。米国株相場が急速に下げ幅を縮小したほか、一時は1.24%台まで低下した米10年債利回りが1.30%台まで低下幅を縮めたことがドル円を下支えした。

ユーロドルは3営業日ぶりに反発。終値は1.1845ドルと前営業日NY終値(1.1790ドル)と比べて0.0055ドル程度のユーロ高水準だった。対円中心にドル安が進んだ流れに沿ってユーロ買い・ドル売りが先行。欧州中央銀行(ECB)が発表した戦略見直しが想定範囲内であったことも買い安心感につながり、一時1.1868ドルと日通し高値を更新した。

ECBは1年半にわたる戦略見直しの結果、中期的なインフレ率目標を「2%」に変更すると発表した。これまでの「2%に近いが、それを下回る水準」を改め、物価の一時的な上振れを容認する。気候変動に対する考慮を金融政策に加味することも明らかにした。

なお一部報道によると、戦略見直しの内容が先行きの政策にどのように反映されるかを示す「フォワードガイダンス」を巡っては合意に至らなかった。22日の理事会で改めて討議するという。

ユーロ円は5日続落。終値は129.95円と前営業日NY終値(130.50円)と比べて55銭程度のユーロ安水準。日本時間夕刻に一時129.63円と日通し安値を付けたものの、NY市場に限れば130.00円を挟んだ狭いレンジでのみ合いに終始した。ドル円とユーロドルの値動きの影響を同時に受けたため、相場は方向感が出なかった。

【本日の東京為替見通し】株価動向を見守る展開、円買い要因少ないが軟調な株価が上値圧迫

本日の東京時間のドル円は株式市場の動きを確かめながら、ドル円のリバウンドがあるかを探る展開となるか。米中間のデカップリングの悪影響が、世界の株式市場へ徐々に広まっている。昨日も中国政府による海外上場規制強化などを背景に、株売りによるリスクオフ相場に動いた。また、中国の軍事情報にリンクしている企業への米国の投資を停止する米大統領命令もあり、FTやラッセルのインデックスから約20の中国企業株を削除することを発表しているが、今月26日からはMSCIインデックスからも上述の多くの企業が削除されるとされている。中国側からも今後の報復行為が予想されることで、この流れによる資金の動きの遷移が一時的に終わるのか、当面続くのかを見極める必要がある。

ただし、株価の下落がリスクオフにより円買い・ドル売りにはなっているものの、ファンダメンタルズの弱い日本買いが長期間続くのも難しいと思われる。12日から東京都に緊急事態宣言が再発令されるなど、円買い要因はほぼない。ポジションの偏りによる調整のドル円売りが落ち着けば、再び円売り相場に戻るとも思われる。

ドル円以外の通貨は、本日は東京時間夜から動きが活発となりそうだ。本日はラガルド欧州中央銀行(ECB)総裁、ベイリー英中銀(BOE)総裁をはじめ複数の中銀関係者の講演が控えている。昨日のECBの戦略見直しが盛り上がり欠ける結果となったこともあり、講演後はECB総裁に踏み込んだ質問が出てくる可能性もあり、総裁の回答の内容に警戒したい。

なお、アジア時間には6月中国消費者物価指数(CPI)と生産者物価指数(PPI)が発表される。ここ最近では中国の経済指標が為替相場が動くことはなくなっているが、中国株も不安定な動きをしていることで、指標発表後の中国株の動きには要注意となりそうだ。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

○08:50 ◇ 6月マネースtock M2 (予想: 前年比 6.0%)

<海外>

- 10:30 ◎ 6月中国消費者物価指数 (CPI、予想: 前年比 1.3%)
- 10:30 ◎ 6月中国生産者物価指数 (PPI、予想: 前年比 8.8%)
- 15:00 ☆ 5月英国内総生産 (GDP、予想: 前月比 1.5%)
- 15:00 ◎ 5月英鉱工業生産指数 (予想: 前月比 1.5%/前年比 21.6%)
- 15:00 ◎ 5月英製造業生産高 (予想: 前月比 1.0%)
- 15:00 ◇ 5月英商品貿易収支/英貿易収支 (予想: 111.00 億ポンドの赤字/12.50 億ポンドの赤字)
- 15:00 ◎ 6月ノルウェーCPI (予想: 前月比 0.4%/前年比 2.9%)
- 16:00 ◇ 5月トルコ経常収支 (予想: 30.3 億ドルの赤字)
- 16:00 ◎ レーン・フィンランド中銀総裁、講演
- 19:00 ◎ ベイリー英中銀 (BOE) 総裁、講演
- 19:00 ◎ ラガルド欧州中央銀行 (ECB) 総裁、講演
- 20:30 ☆ 欧州中央銀行 (ECB) 理事会議事要旨 (6月10日分)
- 21:30 ☆ 6月カナダ雇用統計 (予想: 新規雇用者数変化 19.5 万人/失業率 7.7%)
- 23:00 ◇ 5月米卸売売上高
- 23:00 ◇ 5月米卸売在庫 (予想: 前月比 1.1%)
- 24:00 ◎ デコス・スペイン中銀総裁、講演
- 20 カ国・地域 (G20) 財務相・中央銀行総裁会議 (伊ベネチア、10日まで)

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

8日 11:40 ロウ豪準備銀行(RBA)総裁

「持続的 2-3%のインフレに 2024 年までかかると予想」
「利上げの条件はインフレの状況次第であり、期日ではない」
「債券買い入れの縮小は中銀の支援停止を意味するものではない」
「将来的な景気循環の中で量的緩和が必要となる可能性は高い」
「マイナス金利は考えていない」

8日 13:38 中国人民銀行副総裁

「一部の赤字輸出企業を支援するために、人民元レートを基本的に安定させる」
「輸出企業を支援するために政策手段を適宜調整する」

8日 15:33 スナク英財務相

「失業率は以前よりはるかに低い」
「私とジョンソン首相は国に対し同じ野望を抱いている」
「雇用と賃金を通して国民を支援することがベスト」

8日 20:05 欧州中央銀行(ECB)

「インフレ目標を 2%に引き上げる」
「中期で対称的な 2%のインフレ目標を採用する」
「7月22日の会合から新戦略の適用を開始する」
「金融政策に気候変動に対する考慮を加味する」
「インフレ目標 2%からの乖離は容認する」
「インフレ目標 2%からの上下の乖離は望ましくない」

8日 21:37 ラガルド ECB 総裁

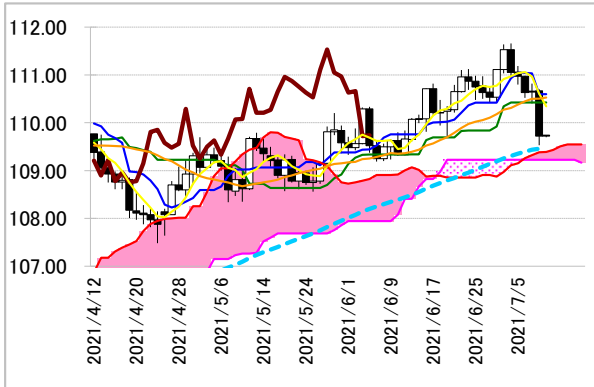
「全会一致で戦略を承認」
「新たな目標は明白であり、対話が容易」
「インフレ目標 2%は上限ではない」

9日 02:15 米ホワイトハウス

「日本政府はオリンピックを実施するために必要な公衆衛生上の措置を講じている」
「大統領夫人がオリンピック開会式に出席するかはまだ検討中」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

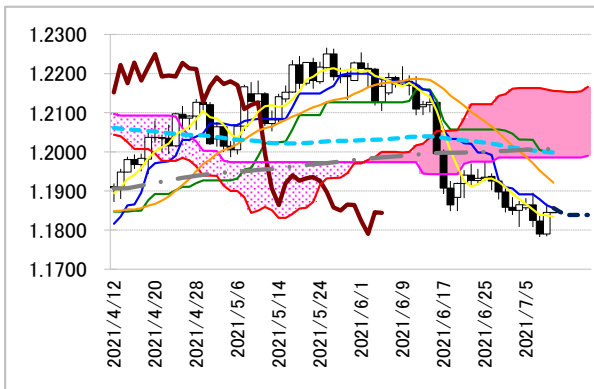


<ドル円=90日線や雲の上限を試す局面>

下影陰線引け。一目均衡表・基準線 110.43 円や、110.50 円台に位置する 21 日移動平均線を下抜けて 6 月 11 日以来、約 1 カ月ぶりの安値 109.53 円まで下落した。

109.47 円前後で推移する 90 日移動平均線や、一目均衡表・雲の上限 109.39 円を試す局面だが、同下限 109.23 円や 6 月 7 日安値 109.19 円程度までの下落余地も視野に入れて臨むべきか。下抜けると、次は 5 月 25 日安値 108.56 円、同 19 日安値 108.57 円が位置するレンジが意識される。

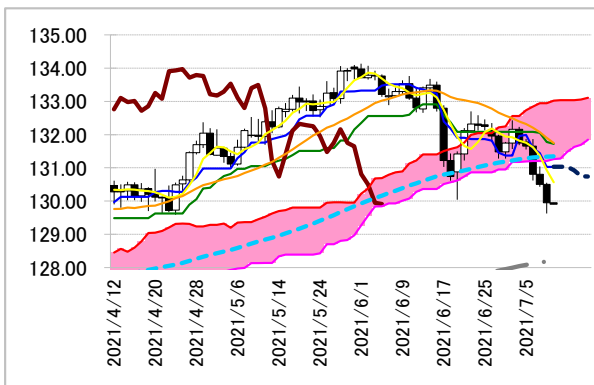
レジスタンス 1	110.34(5 日移動平均線)
前日終値	109.72
サポート 1	109.23(日足一目均衡表・雲の下限)
サポート 2	108.56(5/25 安値)



<ユーロドル=転換線こなしでも 21 日線が上伸抑制か>

上影陽線引け。一時 1.1868 ドルと、6 日に一目均衡表・転換線付近で伸び悩んで 1.1895 ドルを上値に下落し抵抗の値幅を 7-8 割がた回復する反発となった。ただ、6 日と同様にここからも転換線付近が重い。本日の 1.1856 ドルからまだ低下が続く見込みの同線を日柄の経過を味方に上回することは考えられるが、1.1920 ドル付近で低下中の 21 日移動平均線が上伸を抑制するだろう。

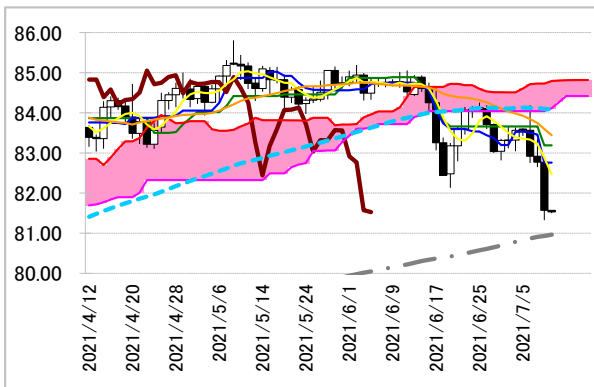
レジスタンス 1	1.1895(7/6 高値)
前日終値	1.1845
サポート 1	1.1782(7/7 安値)



<ユーロ円=6月に下げ渋った 130 円付近を下抜け下落加速>

下影陰線引け。6 月 21 日に長い下ひげを形成して下げ渋った際の安値 130.04 円を下抜け、129.63 円まで下落が加速した。4 月 23 日安値 129.59 円、同 8 日安値 129.57 円といったポイントを前に下落の勢いをいったん緩めたが、130 円台で低下中の 5 日移動平均線や一目均衡表・転換線 131.03 円が戻り局面での抵抗となる。自律反発する場面を挟みつつも、下値を探る展開が続きそうだ。

レジスタンス 1	130.56(5 日移動平均線)
前日終値	129.95
サポート 1	129.63(7/8 安値)



<豪ドル円=下抜けた 6/21 安値 82.14 円が目先の抵抗>

下影大陰線引け。一目均衡表・転換線付近で戻りが抑えられ、6 月 21 日安値 82.14 円を下抜けた。2 月 12 日以来の安値 81.32 円まで下落幅を広げた。下抜けた 82.14 円が目先の抵抗となり、82 円半ばで低下中の 5 日移動平均線付近でも戻りが鈍りそう。82.76 円へ低下した転換線付近まで戻すのも難しそうで、崩れた相場が強い地合いを回復するのは容易ではない。

レジスタンス 1	82.14(6/21 安値)
前日終値	81.57
サポート 1	81.09(2/12 安値)

